



「年生 生活科 かぼちゃを育てよう」より
智恵文の特産品である「かぼちゃ栽培」の体験活動を通して地域の産業への気づきを深めました。
(名寄市立智恵文小学校)

No. 107 (平成23年3月1日)

お も な 内 容

	ページ
随 想	1
研究発表会・研究室から	2
研究員授業・協力校授業 ...	3～4
新年度の講座予定	5
メディアで紹介された講座	6
講座寸描	7～9
心に残る授業その④・ご案内 ...	10

随 想

「信頼と創造」



上川教育研修センター組合 教育委員会

教育長 小 池 語 朗

作家井上靖さんは、著書「幼き日のこと」の中で、次のように述べている。

「母が時に五月の旭川の、百花が一時に開く美しさを語るのを聞いたたりすると、私は誰よりも恵まれた出生を持つていたと思った。」

生後一年足らずしか過ごしていない生誕の町への誇りは、愛情豊かな母の思い出とともに心に刻まれたようである。

時は流れ、旭川の子どもの取り巻く環境の変遷はあるが、親の愛情の尊さは変わらぬものではない。学校訪問で出会った子どもたちの瞳の奥に、健やかにたくましく成長して欲しいと願う姿が浮かぶ。

教育は信頼で成り立っている。頼りにできる、頼りにされる関係が大切である。

人々が様々な価値観や不安をもちながら生きていく時代にあつて、学校は、保護者の願いに対して真摯に耳を傾ける必要がある。そして、学校や子どもにかかわる課題の解決に向けた方策を保護者と共有し、教育の質を高め、人格の完成や自立した人間の育成などの教育の使命を果たしていくなければならない。

地域との信頼関係ということでは、昨年のある厳寒の日に市民から寄せられた一通のメールが思い出される。

「通勤時、どんな悪天候でも、校長先生が児童一人一人に優しく穏やかに声をかけています。旭川には他に素晴らしい教育者が数多くいることを、私たちが市民はただ知らないだけかもしれないと、このように地域住民の温かい心に触れると、学校を見守り支援してくださることに心強さを感じる。子どもを中心に、学

校、家庭、地域がそれぞれの役割を自覚し、共に手と手を結び合い、教育効果を引き出す環境を構築していくことが教育行政の役割と改めて決意を強くする。

学校教育を計画的・総合的に推進するため策定した「旭川市学校教育推進基本方針」においては、「信頼と創造」を学校教育推進の基盤とし、基本理念「夢や目標に向かい、力強く未来を拓く 旭川の子どもの育成」の実現を目指している。

そのためには、児童生徒に「生きる力」をはぐくむための具体的な教育施策を実効性をもって推進していくことが重要であり、学校、家庭、地域が信頼関係を深め、知恵を出し合いながら創造的な教育活動を展開していく必要がある。

各学校においては、地域の教育環境の活用や言語活動といった具体的な指導の手立てを位置付けるなど、旭川らしさを生かした新しい教育課程がこの四月から実施される。児童生徒の学習内容の確実な定着は、何より教師の指導力によるところが大きい。「分りやすい授業」「学ぶことが楽しい授業」の実践を積み重ね、専門家としての知識と技術、論理と感性を磨いていくことを期待したい。

井上靖さんが晩年まで過ごした東京の自宅の書斎や応接間などが、間もなく旭川に移築される。思い入れのある故郷での復元を喜んでくれていると思う。

次代を生きる子どもたちが、当時のたずまいから、郷土の薫り高い文化を感じ取ってくれることを願っている。

(旭川市教育委員会 教育長)

センター日誌

11月17日	研修事業拡大会議
12月14日	冬季拡大研究室会議
12月27日	1月13日
1月6日	研究室冬季集中研
1月20日	冬季合同所員研修会
2月2日	センター運営協議会
2月8日	センター組合教育委員会会議
2月17日	センター研究発表会
3月1日	センター組合議会定例会
3月31日	センターだより第107号発行
	平成23年度研修講座開催要項
	平成22年度研究紀要第36号発送



「年生 音楽科 邦楽教室」より
本物の伝統文化に触れる！
「さくらさくら」を演奏できるようにしました。
(旭川市立光陽中学校)

研修センター研究発表会

今、研究室では



二月八日、四十二講座の最後の講座となる研修センター研究発表会が、四十七名の受講者を迎え、開催されました。

全体会後の研究発表では、始めに、上川教育研修センター長瀬研究員による第十四次研究の研究理論と実践の発表、二名の研究員による授業実践の発表を行いました。続いて、研究協力校四校（鷹栖小・啓北中・東明中・新町小）による授業実践の発表を行いました。

その後は、「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の在り方」について研究協議を行いました。研究協議では、受講者の皆様から、貴重な御質問や御意見をいただきました。さらに、研究協議の最後には、旭川市教育委員会青山指導主事と上川教育局瀬越指導主事から、本研究の成果と課題について、御指導と御助言をいただきました。皆様からいただいた多くの御意見を次年度からの研究に生かせるよう努力してまいりたいと思います。ありがとうございました。

成 果

- 1 単元（題材）のねらいと児童生徒の実態から、育てなければならない力を明確にし、指導計画に適切に位置付けることにより、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の改善を図ることができた。
- 2 指導計画の工夫については、各教科に「習得・活用」の過程を、総合的な学習の時間に「探究」の過程を位置付け、各過程における育てなければならない力のつながりを明らかにしたことにより、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の改善を図ることができた。
- 3 授業展開の工夫については、問題解決的な学習過程を基盤とし、形成的評価を生かした指導や言語活動の充実を図ったことにより、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の改善を図ることができた。

課 題

新学習指導要領の全面実施に伴い、目標の設定の仕方とその評価の方法について工夫を図ることや、効果的な言語活動の在り方について、さらに研究を深める必要がある。

第十四次研究
研究主題「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の在り方」
第三年次「研究のまとめ」

上川教育研修センターでは、研究主題を「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の在り方」と設定し、理論研究と実践検証を行ってきました。本研究では、児童生徒の実態把握と基礎的・基本的な知識・技能の明確化、単元（題材）構成や授業展開の工夫により、児童生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむことを目指して研究を推進してきました。

その結果、本研究の成果と課題を次のように明らかにすることができました。

第15次研究 研究主題（案）

「学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方」
～目標達成へ向けた授業構築～

研究内容1
指導計画の工夫

研究内容2
授業展開の工夫

研究内容3
評価の工夫

研究内容の詳細については、次年度のセンターだよりでお知らせいたします。

所員の授業実践

緑が丘中学校二年 数学「連立方程式」

研究員 常盤 慎一

連立方程式の解き方や使い方を説明する活動を通して、

事象を数理的に考察し表現する力をはぐくむ学習

一 「習得・活用」の過程

連立二元一次方程式の解について、問題の答えや二元一次方程式の解と関連付けて説明する活動を通して、連立二元一次方程式及びその解の意味に関心を持ち、解を求めようとすることができた。また、式を解きやすい形に変形し、加減法や代入法を用いた解き方を説明する活動を通して、連立二元一次方程式を解くことができるようになった。さらに、問題文の数量関係と関連付けて式の立て方を説明したり、数量の関係をまとめた図や表から、連立二元一次方程式を用いて問題を解く方法を順序立てて説明したりする活動を通して、具体的な事象について連立二元一次方程式を立て、問題を解くことができるようになった。

その結果、連立二元一次方程式を計算する活動では、ほとんどの生徒が解き方を説明し、計算することができ、連立二元一次方程式を解くことができた。また、具体的な事象において連立二元一次方程式を用いて問題を解く活動では、式の立て方や問題の解き方を説明し、問題を解決することができ、事象を数理的に考察する力をはぐくむことができた。

二 「探究」の過程

「習得・活用」の過程ではぐくんだ「事象を数理的に考察し表現する力」を「探究」の過程で活用することができるようにした。具体的には、総合的な学習の時間「職業疑似体験」第二次における商品の価格設定をする整理・分析の場面である。また、その他、各教科の学習で身に付けた力も総合的に働かせることができるようにした。

その結果、総合的な学習の時間の目標である「模擬店の設営や商品製作を通して、豊かな発想とそのアイデアを具体化させる力を身に付けること」を達成することができた。



東栄小学校三年 総合的な学習の時間

「東光探検隊くわしたたちの町のすてきな人」

研究員 貝谷 雅敏

地域の町内会活動を調べることを通して、視点を決めて情報を分析し、

地域の一人として行動しようとする態度をはぐくむ学習

一 「習得・活用」の過程で身に付けた主な知識・技能

本実践では、各教科の「習得・活用」の過程において身に付けた主な知識・技能を次のようにおさえ、「探究」の過程において活用することができるようにした。

- 国語 「メモを取りながら聞くこと」
- 社会 「店の人の様子を調べ、工夫や努力、願いなどをまとめること」
- 理科 「昆虫の体のつくりから、虫を分類すること」など

二 「探究」の過程

第一次では、二つの地区の町内会活動を調べることににおいて、国語の「メモを取りながら聞くこと」や理科の「表にまとめ、共通点や差異点を比較して考えること」などを活用することができた。

第二次では、複数の町内会の活動を調べることににおいて、国語の「中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、見出しを付けたりして内容を整理すること」や理科の「昆虫の体のつくりから、虫の分類をすること」などを活用し、情報を分類することができるようになった。また、分類した町内会活動の特徴を見いだす活動では、社会の「店の人の様子を調べ、工夫や努力、願いなどをまとめること」を活用することができた。さらに、社会の「校区の建物や土地の様子を絵地図に表すこと」を活用し、インタビューしたことを町内会マップにまとめ、相手や目的に応じて分かりやすく表現することができるようになった。

第三次では、地域の一人としてできることを実践する活動において、社会の「店の人の工夫や努力を調べ、自分たちにできることを考えること」を活用することができた。

その結果、本単元で育てようとする資質、能力、態度である「視点を決めて情報を分析し、地域の一人として行動しようとする態度」をはぐくむことができた。



協力校の授業実践

◇「習得・活用」の過程の実践 鷹栖町立鷹栖小学校

六年 算数

「単位量あたりの大きさ」

授業者 児玉 恵美子

混み具合の比べ方を考え、説明したことにより、 1m^2 あたりの人数や一人あたりの面積など、単位量あたりの考え方を考えて考えることができるようになった。また、もとにする量を決めて、混み具合の比べ方を説明したことにより、一人あたりの面積や 1km^2 あたりの人数で大きさを比べ、人口密度の意味を理解することができるようになった。さらに、単位量あたりの大きさをい、全体の量の求め方を説明したことにより、単位量あたりから全体の量を求めることができるようになった。

その結果、本題材では、単位量あたりの考え方をいって、異種の二つの量の組み合わせによって導き出された量の比べ方を説明することができるようになり、「見通しをもち筋道を立てて考え表現する力」をはぐくむことができた。



◇「習得・活用」の過程の実践 旭川市立啓北中学校

二年 数学

「平行線と角」

授業者 小野崎 貴子

多角形の内角の和や外角の和の求め方を説明したことにより、多角形の内角の和を求める式や、全ての多角形の外角の和が 360° であることを求めることができるようになった。また、平行線の性質を用いて角の大きさの求め方を説明したことにより、平行線の同位角や錯角が等しくなるという性質を理解し、角の大きさを求めることができるようになった。さらに、基本的な平面図形の性質を利用して、角の大きさの求め方を説明したことにより、三角形の内角の和が 180° になることを証明したり、目的に応じた補助線を引き、角の大きさを求めたりすることができるようになった。

その結果、本題材では、補助線を引くことにより、平面図形の性質を利用して角の大きさの求め方を考えることができるようになり、「論理的に考察し表現する力」をはぐくむことができた。



◇「習得・活用」の過程の実践 旭川市立東明中学校

一年 理科

「物質のすがたと状態変化」

授業者 今野 行太郎

実験結果から得たグラフを活用して、状態変化と温度の関係を調べたことにより、正しいグラフの作成方法を身に付けたり、グラフの特徴をとらえ、エタノールが沸騰するとき一定の温度になることを説明したりすることができるようになった。また、状態変化における温度変化から、未知の物質を分析・考察したことにより、温度変化と状態変化を関係付けて考えることができた。さらに、別グループが行った違う物質の実験結果から、物質によって溶ける温度が決まっていることを見いだし、説明することができるようになった。

その結果、本題材では、実験を適切に進め、実験結果をグラフ化して分析する力を身に付けることができた。また、実験や分析の結果を比較し、適切に説明したことにより、「事象を科学的に考察し表現する力」をはぐくむことができた。



◇「探究」の過程の実践 旭川市立新野小学校

六年 総合的な学習の時間

「名人・達人に学ぼう！」

授業者 馬場 大輔

第一次では、職業について調べる活動において、「働いている人の思い」に焦点を当て、製造業やサービス業など複数の職業について調べ、収集した情報を比較・分析することができるようになった。

第二次では、働いている人を取り扱う活動において、「どんな思いで働いているのか」と、視点を決めて調査したことにより、職業に対する見方や考え方を広げることができるようになった。

第三次では、インターネットを活用して詳しく調べたことを基に、自分の将来の夢についてまとめ、「夢交流会」で交流し合ったことにより、将来に対する夢や希望をもつことができるようになった。

その結果、本単元で育てようとする資質、能力、態度である「職業に対する見方や考え方を広げ、将来の夢や希望をもつこと」をはぐくむことができた。



平成23年度 上川教育研修センター開催予定講座

番号	講座名	期日	予定数	研修内容の概要	授業
1	学校経営Ⅰ	5/16・17	該当者	平成22年5月28日以降採用の小・中学校校長を対象とし、学校経営に必要な基本的事項及び今日的な教育課題について	
2	学校事務実務	5/18・19	30	学校事務実務の基本的な要領及び今日的課題について	
3	特別支援教育	5/18 ① 6/15 ②	20	障がい等のある児童・生徒の能力や特性に応じた指導内容や方法、及び評価に重点を置き、指導力の向上と望ましい学級経営の在り方について(②で授業研究)	小・中
4	学校経営Ⅱ	5/25・26	該当者	平成22年6月24日以降昇任の小・中学校教頭を対象とし、学校運営上の基本的事項及び今日的な教育課題について	
5	動物たちと行動展示	5/25	10	旭山動物園の特色ある経営や動物の生態について	
6	保健安全指導	6/1	15	子どもの心の発達と支援の在り方について	小
7	総合的な学習の時間	6/9	15	地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動の在り方について	小
8	学級経営	6/16 ① 10/16 ②	15	協働体制を基盤とした、子ども一人一人が生かされる開かれた学級経営の在り方について(②で授業研究)	小・中
9	読書活動	6/22	15	児童・生徒の読書習慣の確立と活動上の諸課題に重点を置き、学びを支え豊かな人間形成を図る読書活動の在り方について	小
10	複式教育	6/29	15	児童生徒一人一人の主体的な活動を促す体験的な学習の工夫について	小
11	小学校外国語活動	7/6	15	小学校における楽しく効果的な指導計画の充実を目指した実践交流及び指導内容・方法について	小
12	生活科指導	7/7	15	子どもが自分の成長を感じられる指導と評価の在り方について	小
13	国語科指導	7/25 ① 9/2 ②	20	「話すこと」「聞くこと」における指導に重点をおき、確かな言語能力を培う指導の工夫と改善について(②で授業研究)	小・中
14	社会科指導	7/26 ① 8/31 ②	20	社会的事象の意味を考え、表現する力を育てる指導の工夫改善について(②で授業研究)	小・中
15	学校経営Ⅲ	7/26	該当者	教頭職2年目以降で、本講座未受講の小・中学校教頭を対象とし、学校運営上の基本的事項及び教育課題について	
16	算数・数学科指導	7/27 ① 9/7 ②	20	算数・数学科における指導上の課題を明確にし、数学的な見方、考え方を実感できる指導内容や方法について(②で授業研究)	小・中
17	理科指導	7/28 ① 9/7 ②	20	理科教育における指導上の課題を明確にし、地学的な現象に対する科学的な見方や考え方を育成する指導の在り方について(②で授業研究)	小・中
18	外国語科(英語)指導	7/29 ① 9/8 ②	10	実践的コミュニケーション能力の育成を目指し、言語活動や言語材料に重点を置いた指導計画の作成や授業の工夫について(②で授業研究、小学校外国語活動の授業参観を予定)	中
19	技術・家庭科実技	8/1	10	「エネルギー変換」に重点を置き、児童生徒が創意工夫できる魅力的な教材の開発と実技研修について	
20	体育科実技	8/1	15	基本の運動と体づくり運動、機械運動(ダンス)にかかわる指導方法と実技研修について	
21	国際理解教育	8/3	15	国際理解教育における教師の果たす役割について	
22	道德教育	8/3 ① 9/28 ②	15	道德的実践力を育む道德教育の在り方について(②で授業研究)	小・中
23	図工・美術科実技	8/4	15	デザインと工芸に重点を置いた指導方法及び実技研修について	
24	生徒指導	8/4 ① 9/29 ②	15	生徒指導の機能を生かした指導の在り方や諸課題について(②で授業研究)	小・中
25	ミニ道研A	8/5	30	道研主催によるコース別研修(正式な日程は開催要項で)	
26	音楽科実技	8/24	20	合唱指導の基礎と指揮法に重点を置いた授業研究と実技指導について	小
27	書写実技	8/24	15	書写指導の現状と課題を明確にし、日常に生きて働く書写力を育てる指導について	小
28	教育講演会	9/6	80	「保護者や地域」との信頼関係の確立に必要なコミュニケーションの在り方について 講師：大阪大学大学院教授 小野田正利氏	
29	特別活動	9/15	15	自主的・実践的な態度を育む学校行事の在り方に重点をおき、特別活動の目標・内容及び指導方法等について	小
30	社会教育	9/21・22	20	家庭や地域の教育力の向上と学習成果を適切に生かすことのできる環境づくりについて	
31	校内研修	10/5	20	「校内研修の成果と生かし方」をテーマに、教職員一人一人の役割を明確にし、実践的な指導力の向上と校内研修の工夫改善について	小
32	ミニ道研B	1/11	30	道研主催によるコース別研修(正式な日程は開催要項で)	
33	書に親しもう	1/12	10	自分なりの表現で書に親しむ文化講座(半日日程 午前)	
34	研修センター研究発表会	2/7	30	「思考力/判断力/表現力」をはぐくむ学習指導の在り方に関する、第15次3カ年計画の1年次の研究を発表～センター研究員の実践、研究協力校の実践について	
35	教育課程編成	9/15 11/10		新学習指導要領を踏まえた教育課程の編成について	
パソコン実技	A 校務のための表計算入門講座	6/3・7/1 8/5	各6	成績や会計をはじめ、さまざまな校務に応じた表計算ソフトの基本について	
	B 校務のための表計算活用講座	7/29・8/1 9/2・10/14	各6	成績や会計をはじめさまざまな校務に応じた表計算ソフトの便利な活用について	
	C 学校で役立つ画像処理講座	6/10・9/30	各6	視覚に訴える教材や各種通信、掲示物の作成に活用できる画像処理について	
	D 学校で役立つWeb制作講座	6/17	6	ホームページの作成方法や管理、個人情報の取り扱いや情報発信の在り方について	
	E 学校で役立つプレゼン活用講座	8/26・9/27	各6	授業や各種発表会で効果的に活用するプレゼンテーションソフトの活用について	
	F 学校で役立つ動画編集講座	10/21	6	動画編集ソフトの基本操作を習得するとともに、編集した動画の活用方法の在り方について	

～正式な日程は、4月にお届けする「研修講座開催要項」でご確認ください。～

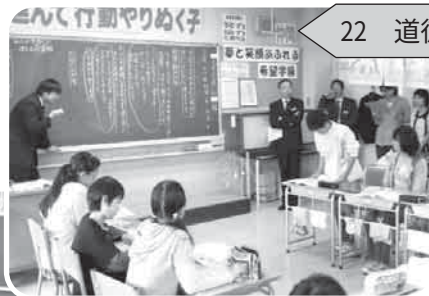


22 道徳教育 8/4・9/29

▼常盤中 第2学年 ともに
支え合うことの大切さにつ
いて体験を交流し合う



▲知新小 第6学年 公共
の場や物を、みんなが気持
ちよく使うためには…。



何度か本講座を受講していま
す。毎回、新たな発見があり、難
しさを感じますが、最後には、自
分も授業を頑張ってみるかとい
う意欲がわいてきます。笠井先生
のお話もいつも新鮮で、的確なた
め、明日の授業に生かせることばか
りです。(旭川市立永山南中学校
西川博康)

研修講座
寸描その3

講座の様子 受講者の声から

24 生徒指導 8/5・9/30

▼愛宕東小 第5学年 共感的理解、
自己存在感、自己決定に目を向け
た、国語科「ニュースを伝え合おう」



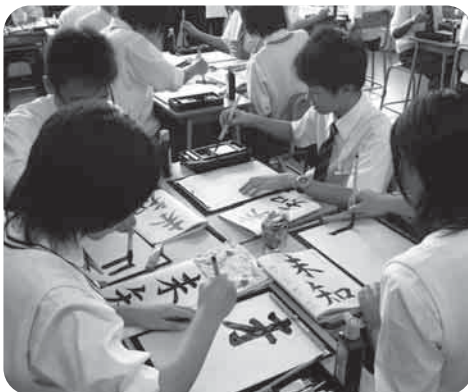
生徒指導の事例や様々な対処法を踏ま
えた大変わかりやすい講座でした。その
中で、自己指導能力を育成することの大
切さを改めて実感しました。実際の授業
参観を含め大変丁寧なご指導をいただき
ありがとうございました。
(旭川市立北星中学校 中佐藤一徳)



▲愛宕中 第2学年 体育科
「マット運動」で、大型モニター
を活用してお互いの運動技能を
高めた

27 書写実技 8/25

▼墨汁と朱墨の2色で運筆の効果的な指導を行う



▲北門中 第1学年 机を風車状に配し、
学習環境を工夫しながら「未知」とい
う文字に取り組む

書写に対する苦手意識があり、どのよ
うに指導したらよいか悩んでいました
が、書写教育の現状や授業の展開、指導
の要点、評価の仕方等大変勉強になりま
した。研修での学びをすぐに授業に実践
したいです。ありがとうございました。
(旭川市立東光中学校 丸山夕佳)

30 特別活動 9/15

▼学校規模の異なる2つの小学校の実践から、
望ましい人間関係の形成と主体的な活動の
提言



▲神楽岡小 第5学年 異学年交流を
企画し、議題「2年生とミニ運動会
をしよう」で種目について話し合う

特別活動の意義、望ましい人間関係づ
くりの在り方、児童会活動の実践につ
いて学びました。異学年集団の活動にお
いては、課題意識を持たせること、良さを
認め励ますこと、これまでの自己流の指
導を改める有意義な研修となりました。
ありがとうございました。
(旭川市立朝日小学校 築取美穂)



▲家庭と学校・地域の効果的な連携を図る、各地区の実践交流

▼出会いを大切にし、互いの理解を深めるためのコミュニケーションスキル



31 社会教育 9/15・16

家庭と地域、学校との効果的な連携を図るためには、三者が相互理解をさらに深める必要性を改めて感じました。また、講義、演習を通してコミュニケーションスキルや説得術を効果的に活用する手法を学べたことは、今後の活動には是非取り入れたいと思います。
(美深町教育委員会 村澤泰志)

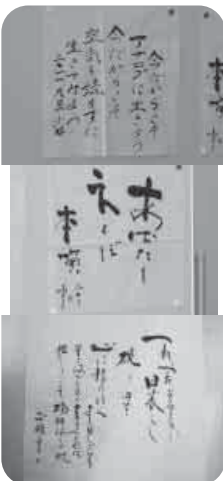
32 校内研修 10/6



▲自校の校内研修の体制や内容についての提言

学校の教育目標や年度の重点を基本にすえた校内研究、研究組織づくりや日常の教育活動とのつながりについて理解を深めることができました。校内研究授業と合わせ、春光小学校の具体的な取組を見せていただき、大変参考になりました。
(旭川市立緑が丘小学校 横山市子)

▼春光小 第3学年 粘土を使って、形を変えると重さが変わるか実験している様子



文字を通して自分の思いを表現することを大変楽しく学ばせていただきました。前川校長先生の「楽しさは意欲につながる」というお話を、身をもって実感することができました。わかりやすくご指導いただきありがとうございました。
(旭川市立旭川第一小学校 越智美幸)



▲「もっと自由に冒険を！」と心の解放を求めつつ指導にあたる講師

33 書に親しもう 1/12

▼講師の助言を受けながら仕上げた作品を受講者全員で相互に鑑賞



34 ミニ道研B 1/13

▼自校の実態に即して研究主題を具現化する方策についての交流



講義では、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方とアサーション・トレーニングの考え方について理解を深めることができました。特にアサーションについての講義・演習については、深く感動しました。この体験を生かし、明日からの実践に生かしていきたいと思えます。
(旭川市立朝日小学校 浜崎成巳)



▲カリキュラムマネジメントの基本的な考え方についての講義

特別支援教育出前講座 名寄南小 11/19

▼困り感をもつ子どもへの指導に役立つ資料の紹介



▲通常学級において、どんな場面で子どもはつまづき困り感をもつかについて



通常学級で困り感をもつ子どもたちへの支援について、具体的に教えていただきました。困り感をもつ子どもへの支援が、周りの子どもたちに差別感よりも安心感を与えるという話がとても印象に残りました。ありがとうございました。
(名寄市立名寄南小学校 菊池ゆかり)

特別支援教育出前講座 神居東小 11/26



▲障がい以外にも目を奪われるのではなく、一人一人の子どもにあった対応を

児童の実態把握や具体的支援、校内支援において必要なことなど、特別支援教育の基礎を学びました。とりわけ、LDをもつ児童にとっでは視覚的支援が大切だということとを改めて感じました。実践的な指導、ありがとうございました。
(旭川市立神居東小学校 西岡由貴)



▲具体的支援に至るまでの手立てや校内支援体制について演習を交えながらの講義

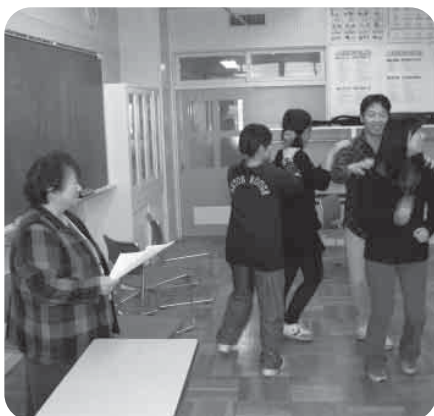
特別支援教育出前講座 美深中 11/29

▼困り感を抱く生徒の理解と場面に応じた手立てについて情報交換

特別支援教育に関する制度の動向にはじまり、虐待と発達障害との関係やその支援方法について、具体例を交えながら非常に詳しくお話いただきました。本校の実態に沿った内容で、学ぶべきことが多く、今後の指導に生かしたいと思います。ありがとうございました。
(美深町立美深中学校 佐藤由佳)



▲子どもたちに「学校に来ることが楽しい」と思ってもらうためには何が必要か



▲心のつながりを大切にした講師の指導でいくつもの演習を体験

生徒指導出前講座 上富良野西小 11/30

「ピアサポート」や「エンカウンター」の演習を通して子ども同士心のつながりがづくりの大切さを学びました。また、演習を通す中で、職員同士の心のつながりも再認識し、とても心温まる研修になりました。本当にありがとうございました。
(上富良野町立上富良野西小学校 大坂 拓)



▲先生方からの感謝の気持ち（付箋紙）でいっぱいになった背中の画用紙

心に残る授業

その61

「慣れ親しむ」という姿を見て

北海道教育庁上川教育局
義務教育指導班

指導主事

板谷 文美子



平成二十三年度から、小学校において年間三十五時間の外国語活動が実施されます。外国語活動の目標には三つの柱があり、その一つに「外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる」があります。今年度、特に外国語に「慣れ親しむ」姿が児童に表れていた授業を紹介します。

その授業で行われていたコミュニケーション活動では、すべての児童が、ジェスチャーを交えながらお互いの顔を見て、やりとりをしていました。児童は、歌やゲームを通して、一時間の中で英語をシャワーのようにたくさん浴び、自然に、しかもとても楽しそうに、英語を耳にしたり口にしたりしていました。「慣れ親しむ」とは、このように違和感なく自然に英語に触れる姿を言うのだと、児童の様子が教えてくれました。

そのような姿を導いたのは、学級担任の先生でした。活動の説明は日本語で、簡単な指示は英語で行うとともに、活動中に児童が英語の表現を忘れた時には自分で確認できるように黒板に絵カードを貼るなど学習環境を工夫していました。また、授業の中では、児童の様子を見取りながら、相手に伝えようとしている姿勢をほめたり、多くの児童とやりとりができるようペアやグループを構成したりして、コミュニケーションへと導いている教師の姿がありました。

授業の最後には、児童が教室内に輪になって座り、相互評価を行い、互いの頑張りを伝え合う活動を取り入れていました。頑張りを評価された児童の笑顔が次々と教室内に広がり、友達とのかかわりを大切にして外国語活動を進めたいという担任の先生の思いが強く伝わってくる授業でした。

授業の後、「英語の時間は、たくさんの人と話ができるから好き」と私に話してくれた児童がいました。言葉を用いて自分の思いを表現することや人とかかわることの楽しさを体感している彼女の言葉が、やがて、すべての児童の言葉になるものと、大きな期待が膨らむ授業でした。

ギャラリー「闡」のご利用お礼

当研修センター「第2研修室」の壁面をギャラリー「闡」として運営しています。今年度も多くの方に作品をご提供いただき、誌面をお借りしてお礼申し上げます。次年度も展示していただける作品がございましたら、センターまでご連絡ください。

【今年度ご利用いただいた皆さん】

- ・占冠村立占冠中央小学校の児童の皆さん
「北海道学生書道展入選作品」
- ・旭川市立東明中学校 校長 前川幸一氏
「前川大煌 個展」
- ・旭川市立愛宕東小学校 6年生 藤田 翼くん
- ・旭川市立愛宕中学校 3年生 藤田 大地くん
「JAXA 宇宙の日 作文絵画コンクール」
- 「神田日勝記念美術館 馬の絵作品展」
入賞作品
- ・「書に親しもう」受講者作品展

平成二十三年度

教育実践発表会・

研究会の予定を

お知らせください！

当センターでは、七月一日発行予定の研修センターだより「教育研修」に、平成二十三年度に上川管内で開催される研究会の日程を掲載する予定です。
つきましては、五月末日までに当センターまで、①大会名や学校名②会場③開催日時をお知らせいただければ幸いです。

【編集後記】

研修センターだより第一〇七号をお届けします。
今年度もセンターだよりをご愛読いただき誠にありがとうございます。今年度も誌面の充実に向けて参ります。新年度もご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。
(担当 佐藤)

発行日 平成二十三年三月一日
上川教育研修センター
〒〇七〇-〇〇三六
旭川市六条通四丁目

責任者 印刷所 東信印刷株式会社
電話(〇一六〇二四二五〇一)
相澤 政 義

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。